

# 横查情報月報



2021  
5051

12月  
15日

横浜市衛生研究所

# 令和3年12月号 目次

## 【検査結果】

レジオネラ属菌の検査結果（令和2年度） .....	1
農産物の残留農薬検査結果（令和3年8月～10月） .....	3

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和3年11月） .....	6
------------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和3年11月） .....	8
-----------------------------	---

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

## レジオネラ属菌の検査結果（令和2年度）

---

レジオネラ属菌によって引き起こされるレジオネラ症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の四類感染症に指定されています。

レジオネラ症には肺炎型とポンティアック熱型があります。肺炎型は死亡例も報告されています。一方、ポンティアック熱はインフルエンザに似た熱性疾患で自然治癒するため発見されづらく、報告例が少ない傾向にあります。

レジオネラ属菌は湖沼の水や土の中に生息する常在菌で、土埃などで運ばれて水景設備や冷却塔、浴場施設などの人工的な水環境下でアメーバを介して増殖します。このレジオネラ属菌によって汚染された水のエアロゾルを人が吸い込んだり、汚染水を誤えんしたりすると感染する可能性があります。感染者から他の人への感染は報告例がありません。

レジオネラ症の発生・拡大を防止するには、原因施設を特定し、レジオネラ属菌を殺菌消毒することが重要です。患者の行動調査で利用施設を聞き取り、施設の水や水回りのふき取り検体を採取して、レジオネラ属菌検査を行って感染源を特定します。

令和2年度は、延べ28施設、205検体（水試料99、ふきとり試料106）のレジオネラ属菌検査を行いました。検査はLAMP法を用いた遺伝子検査と培養法の2種類を行いました。

検査を実施した対象施設数は、患者宅19、高齢者福祉施設5、浴場施設2、医療機関1、スポーツ施設1でした。

検査結果はLAMP法で遺伝子が検出されたのは延べ11施設、39検体（水試料28、ふきとり試料11）で、培養法で菌が検出されたのは4施設、20検体（水試料17、ふきとり試料3）でした。培養法で菌が検出された20検体のうち19検体がLAMP法陽性、1検体がLAMP法陰性でした。LAMP法または培養法で菌が検出された検体の施設と検体の内訳、菌同定結果は表に示したとおりです。

このうち、環境から分離された菌株と患者から分離された菌株がパルスフィールドゲル電気泳動法による分子疫学的解析において一致した事例が2事例ありました（表中No.6、No.9）。No.6では患者喀痰由来株と患者利用施設のシャワー給湯水由来株から検出された*Legionella pneumophila* SG6が一致し、No.9では患者喀痰由来株と患者宅の浴室の給湯口ふきとり、およびシャワー水由来株から*L. pneumophila* SG5が一致しました。

レジオネラ属菌が検出された施設は、保健所の指導により、消毒等の衛生対策を実施しています。

表 レジオネラ属菌が検出された事例の検出結果

No.	施設種類	LAMP法陽性検体	培養法陽性検体と菌名
1	患者宅	浴槽排水口ふきとり	
2	浴場施設	浴槽水	
3	患者宅	浴槽吐出口ふきとり	
4	患者宅	浴槽水 浴槽喫水線ふきとり 石入り木箱ふきとり 浄水器蛇口ふきとり	
5	患者宅	浴槽水 浴槽喫水線ふきとり 雨水	浴槽水(450cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6) 雨水(40cfu/100mL)( <i>Legionella</i> spp.)
6	医療機関	給湯水3か所	給湯水1か所(30cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)※
			① (10cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)
			②、③、④ (20cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)
			⑤ (60cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)
		給湯水①～⑰の17か所	⑥ (410cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)
			⑦ (540cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)
			⑧ (880cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)
		(⑭、⑮、⑯、⑰は LAMP法のみ陽性)	⑨ (930cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6)
			⑩ (90cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6、 <i>Legionella</i> spp.)
			⑪ (170cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6、 <i>Legionella</i> spp.)
			⑫ (220cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6、 <i>Legionella</i> spp.)
			⑬ (840cfu/100mL)( <i>L. pneumophila</i> SG 6、 <i>Legionella</i> spp.)
		7	高齢者施設
8	高齢者施設	機械浴喫水面ふきとり	
9	患者宅	浴室 シャワーヘッドふきとり	浴室 シャワーヘッドふきとり ( <i>Legionella anisa</i> )
		浴室 給湯口ふきとり	浴室 給湯口ふきとり ( <i>L. pneumophila</i> SG 5) ※
		浴室 シャワー水	浴室 シャワー水 (1300cfu/100mL) ( <i>L. pneumophila</i> SG 5 ※、 <i>Legionella anisa</i> )
10	患者宅	浴槽水	
11	患者宅	加湿器給水トレイふきとり	
		加湿器貯水タンク水	

※パルスフィールドゲル電気泳動法で患者喀痰由来株と一致

培養法単位: cfu/100mLは100mL当たりの菌数 (cfu: colony forming unit)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

## 農産物の残留農薬検査結果（令和3年8月～10月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和3年8月～10月に健康福祉局食品専門監視班が収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

8月には、日本なし及びぶどう各5検体、計10検体について検査を行いました。また、10月には、かんしょ(さつまいも)及びこまつな各3検体、キャベツ、玄米及びさといも各2検体、だいこんの根及びなす各1検体の計14検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。日本なし及びぶどう各5検体、こまつな2検体から15種類延べ48項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果 （令和3年8月～10月）

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
かんしょ(さつまいも)	3				
キャベツ	2				
玄米	2				
こまつな	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔クロチアニジン</li> <li>〔メタラキシル及びメフェノキサム</li> <li>シアゾファミド</li> </ul>	0.04	10
				0.03	1
				0.02	15
さといも	2				
だいこんの根	1				
なす	1				
日本なし	5	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>〔クレソキシムメチル</li> <li>チアメトキサム</li> <li>〔フェンプロパトリン</li> <li>ボスカリド</li> <li>〔クロチアニジン</li> <li>チアメトキサム</li> <li>〔テブコナゾール</li> <li>フェンプロパトリン</li> <li>ボスカリド</li> <li>〔クレソキシムメチル</li> <li>クロチアニジン</li> <li>クロルフェナピル</li> <li>チアメトキサム</li> <li>フェンプロパトリン</li> <li>ヘキサコナゾール</li> <li>〔クレソキシムメチル</li> <li>クロルフェナピル</li> <li>〔クレソキシムメチル</li> <li>クロチアニジン</li> <li>クロルフェナピル</li> <li>フェンブコナゾール</li> <li>フェンプロパトリン</li> <li>ボスカリド</li> </ul>	0.05	5
				0.02	1
				0.16	5
				0.03	3
				0.02	1
				0.13	1
				0.29	5
				0.17	5
				0.06	3
				0.14	5
				0.01	1
				0.02	1
				0.03	1
				0.28	5
				0.08	0.3
			0.02	5	
			0.01	1	
			0.29	5	
			0.02	1	
			0.01	1	
			0.04	0.7	
			0.19	5	
			0.02	3	

表1(続き) 市内産農産物の残留農薬検査結果

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
ぶどう	5	5	イミダクロプリド	0.13	3
			シアゾファミド	0.06	10
			ファモキサドン	0.08	2
			フェンブコナゾール	0.09	3
			ペルメトリン	0.15	8
			イミダクロプリド	0.23	3
			クロチアニジン	0.11	5
			ファモキサドン	0.18	2
			フェンブコナゾール	0.09	3
			ペルメトリン	0.06	8
			アセタミプリド	0.01	5
			イミダクロプリド	0.42	3
			クロチアニジン	0.03	5
			テブコナゾール	0.36	10
			フェンブコナゾール	0.01	3
			クレソキシムメチル	0.02	15
			シアゾファミド	0.02	10
			ファモキサドン	0.03	2
			イミダクロプリド	0.10	3
			クロチアニジン	0.02	5
シアゾファミド	0.03	10			
フェンブコナゾール	0.05	3			

注) 中括弧 ( ) はそれぞれ同一検体からの検出

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					
		A	B	C	D	E	F			A	B	C	D	E	F
BHC (α、β、γ及びδの和)	0.005	○	—	—	○	○	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○	○
DDT (DDE、DDD、DDTの和)*	0.005	○	○	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	—	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	—	○	○	○	クロロクソン	0.01	○	○	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	—	○	○	○	シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	—	○	シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○	○	シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	—	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○	○	シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	○	○	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	○	—	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	○	シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	○	シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○	○	ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	○	ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	シラフルオフエン	0.01	○	○	○	○	○	○

表2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					
		A	B	C	D	E	F			A	B	C	D	E	F
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○	○
チアメトキサム	0.01	○	—	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	○	—	—	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	—	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○	○
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	—	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(ホキシトを含む)	0.005	○	—	—	○	—	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
ビリダベン	0.01	○	○	○	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	—	—	—	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○	○
フィプロニル	0.002	○	○	○	○	—	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○	○
フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○	○
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○	○	メトキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○	○
フェントエート	0.01	○	○	○	○	○	○	リニユロン	0.01	○	○	○	○	○	○
フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○	○	リンデン( $\gamma$ -BHC)	0.005	○	○	—	○	○	○
フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○	—	—
フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○	○

農産物の種類 A:こまつな、B:キャベツ、なす、C: だいこんの根、D: かんしょ、さといも、E: 玄米、F:日本なし及びぶどう

○:実施、—:実施せず

\*DDTは $p,p'$ -DDE、 $p,p'$ -DDD、 $o,p'$ -DDT及び $p,p'$ -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報（令和3年11月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年11月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

令和3年11月の総アクセス数は、185,094件でした。前月に比べ12.0%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*79.1%、保健情報10.7%、検査情報月報3.2%、薬事2.1%、食品衛生1.7%、生活環境衛生1.5%でした。

\* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

表1 令和3年11月 アクセス順位

11月のアクセス順位（表1）

を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「ぎょう虫（蟯虫）症について」、2位は、「トキソプラズマ症について」、3位は、「B群レンサ球菌（GBS）感染症について」でした。8位には、「粉ミルク（乳児用調整粉乳）を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？」が入っています。

順位	タイトル	件数
1	ぎょう虫（蟯虫）症について	9,102
2	トキソプラズマ症について	8,289
3	B群レンサ球菌（GBS）感染症について	7,060
4	EBウイルスと伝染性単核症について	6,096
5	水痘（水疱瘡）・帯状疱疹について	5,745
6	手足口病について	5,732
7	横浜市感染症情報センタートップページ	5,387
8	粉ミルク（乳児用調整粉乳）を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？	4,839
9	サイトメガロウイルス感染症について	4,174
10	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,153

「ぎょう虫（蟯虫）症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「B群レンサ球菌（GBS）感染症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/gbs1.html>



### (3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年11月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 令和3年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
新型コロナウイルス感染症患者の過去情報の閲覧方法について	1
インフルエンザの予防接種可能な施設について	1
カナダの予防接種について	1
サイトメガロウイルス感染症について	1

## 2 追加・更新記事

令和3年11月に追加・更新した主な記事は、1件でした(表3)。

表3 令和3年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月12日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和3年11月）

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は、低めの報告数で推移しています。
- 梅毒の報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈11月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	13件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症：O157が2件、O不明2件(いずれも無症状病原体保有者)報告がありました。
- E型肝炎：1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- レジオネラ症：肺炎型2件の報告がありました。いずれも80歳代で、感染経路等不明です。
- ウイルス性肝炎：B型1件の報告(ワクチン接種歴無)がありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：G群1件、A群1件の報告がありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)：無症状病原体保有者2件の報告がありました。いずれも男性で、性的接触(異性間1件、同性間1件)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症：80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症：10歳未満2件(いずれもワクチン接種歴4回有)、50歳代1件(ワクチン接種歴無)、70歳代2件(ワクチン接種歴不明1件、1回有1件)、80歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 梅毒：早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症状病原体保有者2件(男性6件、女性7件)で、そのうち12件に性的接触(異性間9件、同性間2件、詳細不明1件)による感染が推定されています。
- 播種性クリプトコックス症：免疫不全によるものと推定される80歳代の報告が1件ありました。

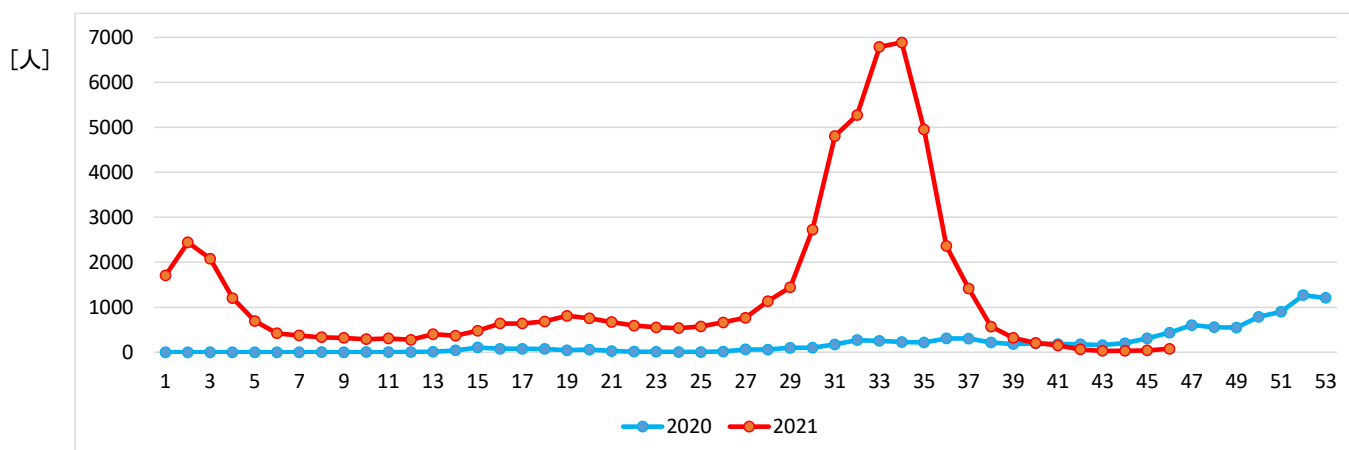
### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第43週～第46週に横浜市から報道発表のありました症例は180件でした。

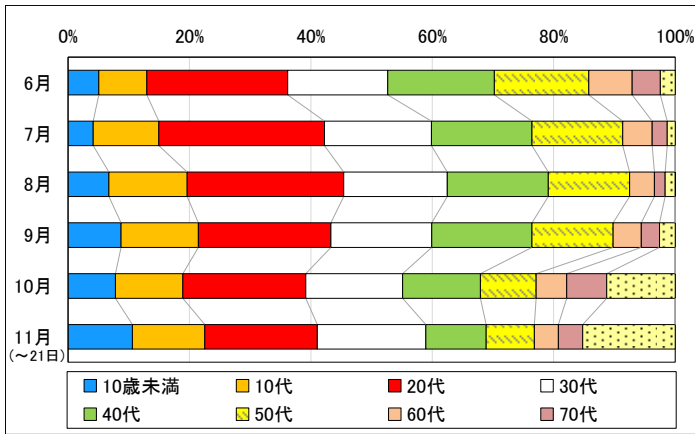
#### ◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

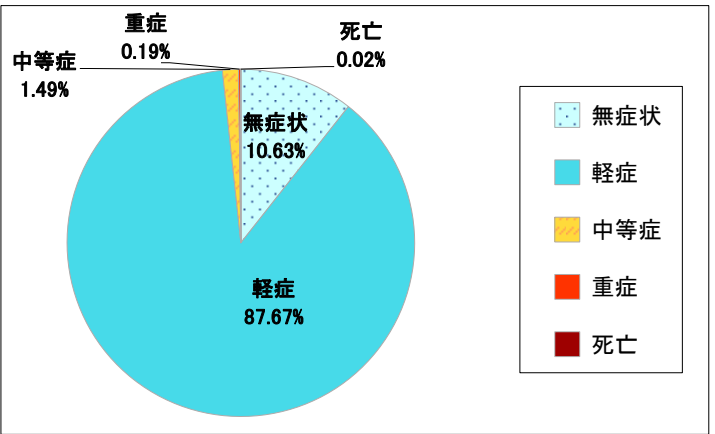
#### 1 報告数の推移



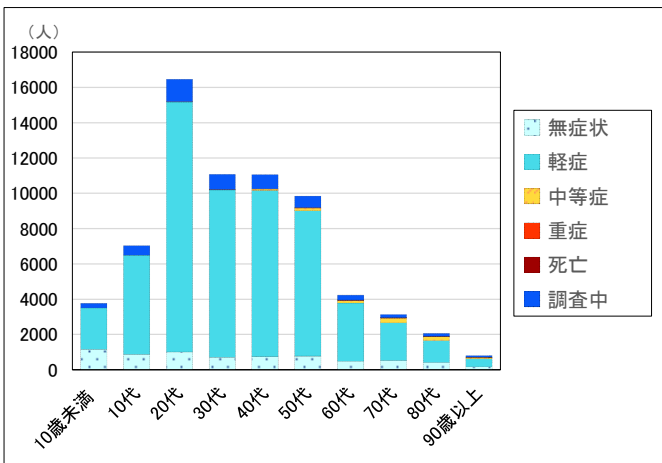
## 2 年齢別割合



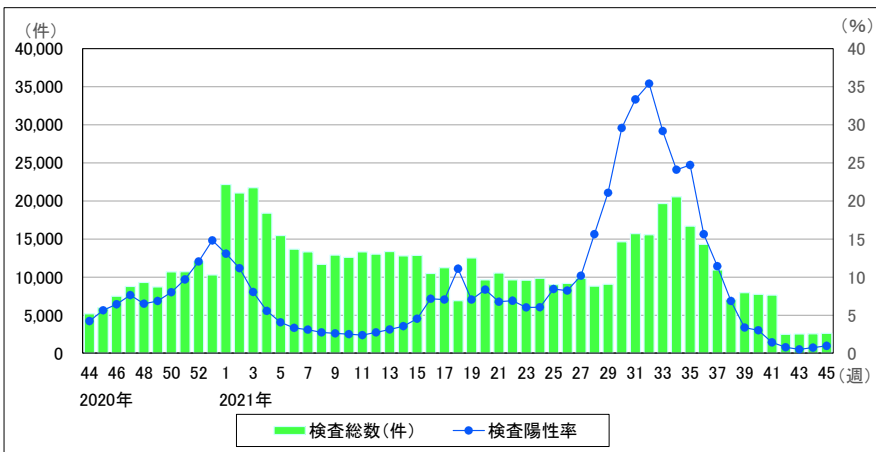
## 3 陽性確定時の症状の割合(2021年第46週まで)



## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2021年第46週まで)

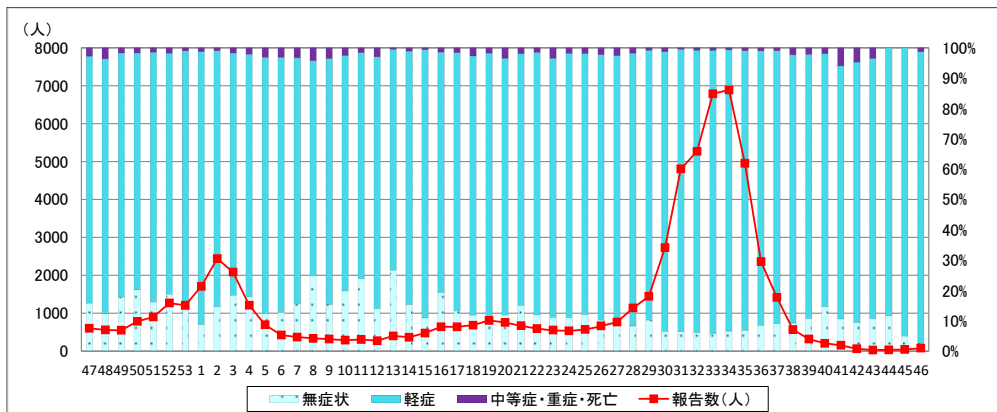


## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2020年第44週～2021年第45週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

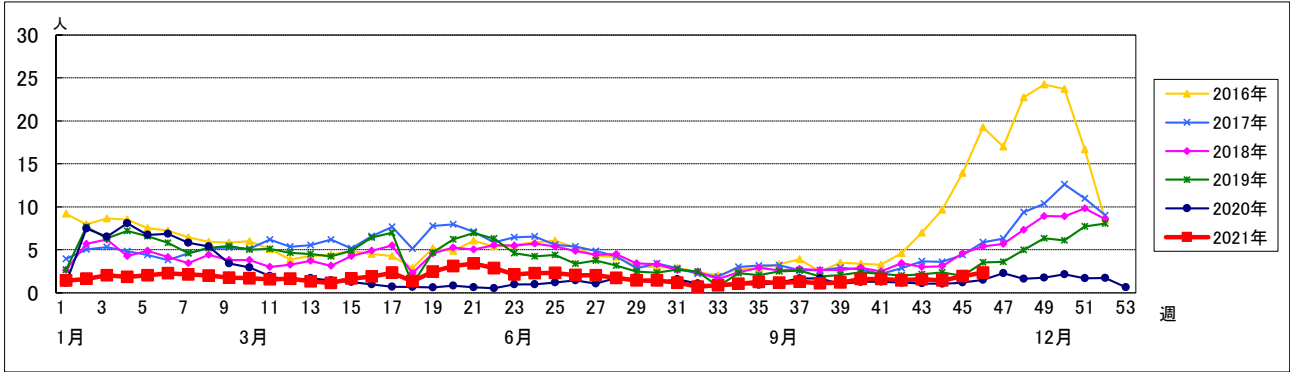
## 6 報告数と届出時点の重症度(2020年第47週～2021年第46週)



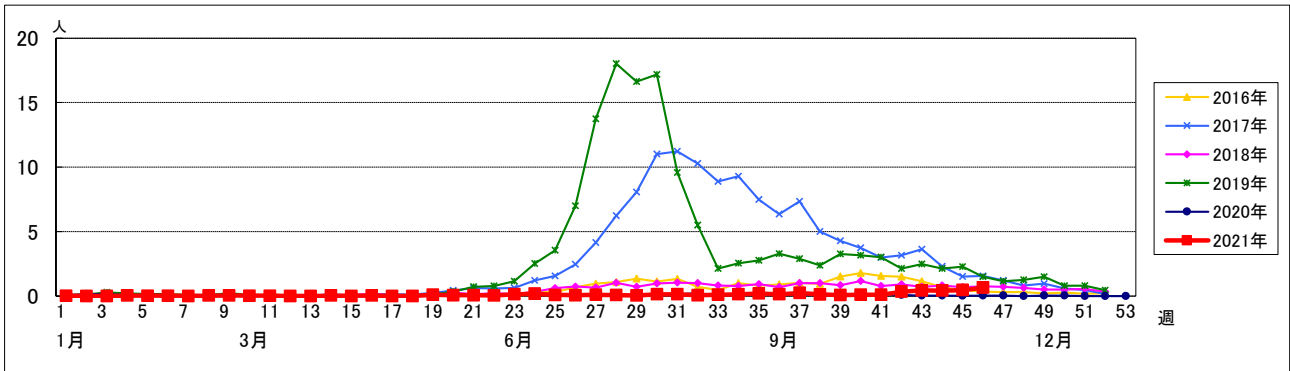
報告週対応表	
第43週	10月25日～10月31日
第44週	11月 1日～11月 7日
第45週	11月 8日～11月14日
第46週	11月15日～11月21日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移していましたが、第44週1.43、第45週1.92、第46週2.33となっています。



2 手足口病: 例年より低めの報告数で推移していますが、第44週0.42、第45週0.45、第46週0.64となっています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性: 6件
尖圭コンジローマ	男性: 7件	女性: 0件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 9件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

## ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

## 〈ウイルス検査〉

11月期(2021年第43週～第46週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、内科定点4件、眼科定点1件、定点外医療機関からは1件でした。

ライノウイルス遺伝子8件、コクサッキーウイルスA4型遺伝子2件、コクサッキーウイルスA6型遺伝子3件及びアデノウイルス56型分離1株が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第43週～第46週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	流行性角結膜炎
アデノウイルス 56型			1 -
ライノウイルス	- 6	- 2	
コクサッキーウイルス A4型	- 1	- 1	
コクサッキーウイルス A6型	- 3		
合計	- 10	- 3	1 -

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

11月期(2021年第43週～第46週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、同定依頼1件の検査依頼がありました。非定点からの検査依頼は、非結核性抗酸菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌5件、侵襲性肺炎球菌3件、侵襲性インフルエンザ菌2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、カンピロバクター1件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼はありませんでした。「小児サーベイランス」の小児科定点から消化器系病原菌1件、溶血性レンサ球菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2021年第43週～第46週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4 <i>Klebsiella aerogenes</i> (3)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
	同定依頼	1	16s rRNA配列解析の結果 <i>Balneatrix alpica</i> が最上位(96.4%)で <i>Oceanospirillales</i> 目の候補が多かった (1)	
	非定点	非結核性抗酸菌 (NTM)	1 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i>	
保健所		腸管出血性大腸菌	5 O157 : H7 VT1 VT2 (2)、OUT : H+ VT1 (3)	
		侵襲性肺炎球菌	3 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 22F型 (2)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 7型 (1)	
		侵襲性インフルエンザ菌	2 <i>Haemophilus influenzae</i> UT (2)	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1 G群溶血性レンサ球菌 (1)	
		カンピロバクター	1 <i>Campylobacter jejuni</i> (1)	
小児サーベイランス	材料	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	直腸ぬぐい液	消化器系病原菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> エンテロトキシンA (1)
	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】